

豊中市の子育ち・子育て支援施策に関する小・中学生、高校生のみなさんの意見及び市の考え方

市は、「豊中市子ども健やか育み条例」に基づき、「豊中市子育ち・子育て支援行動計画」を策定し、子どもの健やかな育ちに関し、子育ち・子育ての支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。この計画の令和3年度(2021年度)の事業実施状況について、市内の小学校放課後こどもクラブ、中学校、高等学校でヒアリングを実施しました。《令和6年(2024年)1月～令和6年(2024年)3月実施》

豊中市では、令和5年度(2023年度)にヤングケアラーについて啓発するためのリーフレットの作成を予定しています。どのような内容や表現、配布方法であれば中学生・高校生にも読んでもらいやすいと思いますか。

家族や学校の先生以外で、あいさつや会話をしたり、相談をしたりするなど、関わりがある大人の人はいいますか。

- 冊子は文字が多く内容のボリュームが大きい。中高生には一目で見れる見開き1枚程度、シンプルなものが多い。
- 専門用語や難しい言葉が多いので説明がある。
- 当事者の実体験がわかるのでコラムはとても良い。
- マンガを入れる、イラストを増やすなど、とっつきやすいようハードルを下げてみんなに知ってもらうことが大切。
- 文章が長い所は、伝えたい部分にハイライトや文字色を変えるなどして目立たせるとよい。
- 全体的にやさしい色合いが良いが、大切な部分はもっと強い色調でメリハリをつけた方がいい。



<関わりがある大人・年上の人>

- 塾の先生、習いごとの先生
- 近所の人、隣に住んでいる人
- 部活のOBや高校生
- 登下校の時に立ってくれているおじいちゃん、おばあちゃん
- 関わりは少ない

<ほしい居場所について>

- 小学校高学年以降で、友達同士で行きやすい場所
- プリクラ機がある
- Wi-fiが自由に使える
- 家では集中して勉強できないので、自習スペースがほしい

<どのように関わりたいか・どのような存在がほしいか>

- 相談や他愛もない話ができる人
- 進路の話が相談できる人
- 同級生と話すような感覚で相談できる人
- 自分と年の近い大学生年代の人から情報を聴きたい

生徒

当初は、中高生、周囲の大人や支援者の方々にヤングケアラーと伴走型支援を知っていただくためのリーフレットを考えていましたが、皆さんの意見をお聴きして、1つの媒体にまとめるのではなく、子ども向け、大人向けを分けた方が良くと考えなおしました。今回は、見やすさへの配慮など皆さんの声を取り入れたうえで、周囲の大人・支援者向けに絞ったリーフレットを作成したいと思います。

中高生向けには、もっと受け止めやすいものを改めて検討したいと思います。

こども支援課

子ども食堂や無料・低額の学習支援など、大人や大学生などの見守る存在がいる子どもの居場所の情報を、ポータルサイト「いこっ」とで公開しています。また、自習などの勉強や遊び、子育てに活用できる市の施設の一覧をホームページに掲載していますので、ぜひご活用ください。

相談しやすいツールや窓口について、みなさんがより相談しやすくなる方法を今後も引き続き検討します。

こども支援課

豊中市の子育ち・子育て支援施策に関する小・中学生、高校生のみなさんの意見及び市の考え方

自分の将来について、今考えていることやイメージしていることはありますか。



- 様々な生き方のイメージがしにくいので、人生の先輩の体験談などが聞けたり、直接相談できたりする場があれば良いと思います
- 自分一人で決められること（就職など）はイメージできますが、結婚など、ライフデザインに他の人が入ってくると相手のこともあるため、ライフデザインを考えにくくなります

将来について、具体的にイメージし、考える機会を提供する“働くこと、結婚、妊娠・出産、育児等について考える”講座を実施しています。令和5年度は、講座を受講した高校生のリアルな声や人生の先輩の体験談を掲載したライフデザインBOOKを発行します。デジタルブック版は市のホームページでご覧いただけます。引き続き若い年代に、将来を考える機会を提供していきます。



こども政策課

交通ルールや自転車マナーについて、どのような取り組みがあれば学びやすいですか。



- 動画は時間が長くなると眠くなるので、体験の方がいいです
- オンライン講座などを申し込むことはハードルになるため、学校の中で取り入れるのが良いと思います
- ヘルメット着用が努力義務となりましたが、ヘルメットが家がないので買わないといけないうことと、髪型が気になるので、ヘルメットは着用しないと思います



市では、みなさんに正しい交通ルールを学び、命の大切さや交通安全に対する意識を高めてもらえるよう、保育園・こども園・小中学校・高校で交通安全教室を実施しています。今後は、すべての教育施設で交通安全教室が実施できるよう取り組んでいきます。

また、VR体験など参加体験型のイベントを開催するなど、自らの命を守るため、自転車用ヘルメットを着用することの大切さについても、よりみなさんに知ってもらうことができよう、引き続き啓発に取り組めます。



交通政策課

ほかにもたくさんのご意見を聴かせていただきました！

ヤングケアラーのことを初めて具体的に知りました。知らずに苦しんでいる子がいるかもしれないので、もっと中学生にも啓発してほしいです

豊中生まれ豊中育ちなので、愛着があります。将来、豊中市以外の場所に住んでも、地元に戻ってきたらほっとする場所であってほしいです

豊中市の取り組みを子どもに伝えようとして大人が取り組んでいる気持ちを知れてよかったです

悩んでいる人は自分から相談しにくい、発信しづらいと思うので、周りの人が気づいてあげられるかが大切だと思います



生徒

市では情報発信の仕方を課題に感じているように思いましたが、生徒会で協力できることがあれば協力していきたいです

＜小学生むけのアンケート＞
自分の気持ちを素直にお話できる大人に、お話を聞いてもらうとどんな気持ちになりますか（回答数が多い順）

- ① ほっとする
- ① すっきりする
- ① 元気がでる
- ④ うれしくなる
- ⑤ 自信がもてる



児童

意見はまだまだたくさんあります！



こども政策課

具体的な提案を含め、たくさんアイデアをいただきました。今後も広く意見を聞きながら、子どもの社会参加の手法や市の取り組みへの反映方法について検討していきます。

泉丘小学校放課後こどもクラブ、庄内西小学校放課後こどもクラブ、第五中学校、第十二中学校、第十四中学校、桜塚高等学校、千里青雲高等学校、豊中高等学校の児童・生徒のみなさん合計74人にご協力いただきました。



たくさんのご意見をありがとうございました。

